さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

焼き芋 冬場収入源に

特産化めざし あす販売

甲府・中道 若手農家が新品種栽培

甲府市の中道地区の若手農家が、焼き芋の特産化を目指し、サツマイモ「ひめあやか」の栽培を始めた。農作物が品薄になる冬場の収入源としたい考え。25日には、同市下曽根町の風土記の丘農産物直売所で芋フェスタ2024で焼き芋として販売する予定だ。

〈三枝大悟〉

中道地区では夏場にトウモロコシなどを栽培しているが、冬場は目立った農作物がなかった。同直売所は2019年ごろ、農家の冬場の収入源確保に向け、若手農家約5人でつくる生産研究会に、冬が旬の農作物の栽培について研究を依頼した。

中道地区の南部は日当たりがよく、水はけの良い土壌でサツマイモの栽培に必要な条件がそろっていることなどから、冬場に人気の焼き芋に適したサツマイモの特産化を目指すことにした。昨シーズンは「紅はるか」を栽培したが、焼き芋で使うには大きく育ちすぎたという。

今シーズンは18年に登場した新品種「ひめあやか」の栽培に取り組んだ。おおむね200㌘以下の食べきりサイズで焼き芋にすると糖度が増すのが特徴。山梨での流通が少ないといい、研究会メンバーの渡辺剛さん(45)は「いち早く導入すれば独自の農産物として注目を集めるのではないか」と期待している。

ひめあやかは昨年11月に収穫し、甘みを増すために保管して熟成している。25日の芋フェスタでは約60本を焼き芋として販売する予定。

研究会は販売状況をみながら今後、地区内でひめあやかの栽培面積を広げるかなどを検討する。渡辺さんは「冬場には焼き芋しか売れないと言われてきたが、ひめあやかで中道特産の焼き芋を販売していけるようにしたい」と話している。

芋フェスタは25日午前9時から正午まで。問い合わせは風土記の丘農産物直売所、電話055(266)3858。

芋フェスタ2024の焼き芋で販売されるサツマイモ「ひめあやか」＝甲府市下曽根町の風土記の丘農産物直売所

（2024 年 2 月 24 日付 山梨日日新聞 16 面）

問1 甲府市の中道地区の若手農家が、サツマイモの栽培を始めた理由を答えてください。

問2 昨シーズンと今シーズンに栽培した、サツマイモの品種を答えてください。

・昨シーズン：＿＿＿＿＿＿＿＿　・今シーズン：＿＿＿＿＿＿＿＿

問3 焼き芋にするサツマイモの特徴を答えてください。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2024 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.